

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号： 3 2 6 1 2
 研究種目： 基盤研究(B)
 研究期間： 2010 ～ 2012
 課題番号： 22300088
 研究課題名（和文） 浮世絵属性情報アーカイブシステムの構築と活用研究
 研究課題名（英文） Archive system for ukiyo-e properties information and its application

研究代表者
 日比谷 孟俊 (HIBIYA TAKETOSHI)
 慶應義塾大学・システムデザイン・マネジメント研究科・講師(非常勤)
 研究者番号： 60347276

研究成果の概要（和文）： 浮世絵の開板時期を特定することは困難な場合が多い。描き込まれた様々な描画対象ならびに文字などの属性情報をコンピュータに取り込み、『吉原細見』にある遊女の在任期間と比較することにより、江戸後期に溪斎英泉が画いた花魁を主題とする 21 シリーズ、218 枚の美人画について開板時期を特定することに成功した。同じ図柄で妓楼と遊女の名前を変えただけの異板が存在する場合があるが、遊女の紋に注目することにより、初版と後版との関係を明確にできる。

研究成果の概要（英文）： It is difficult to determine the year of the issue for ukiyo-e prints. The years of issue for several series of prints showing courtesans of Edo Yoshiwara were determined by extracting properties and meta-data from prints and comparing them with the names of courtesans shown in Yoshiwara-saiken. The chronological order of issue of prints for variants was also determined by observing a crest (mon) of courtesans.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 2010 年度 | 7,900,000 | 2,370,000 | 10,270,000 |
| 2011 年度 | 3,800,000 | 1,140,000 | 4,940,000 |
| 2012 年度 | 2,600,000 | 780,000 | 3,380,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 14,300,000 | 4,290,000 | 18,590,000 |

研究分野： 総合領域

科研費の分科・細目： 情報学、図書館情報学・人文社会情報学

キーワード： 属性情報・アーカイブ・浮世絵・美人画・吉原細見

1. 研究開始当初の背景

浮世絵は、江戸市民の生活を反映した大いなる情報源である。浮世絵だけが独立に存在するのではなく、描かれた対象が江戸の市民生活に深く根ざしていることが、ヨーロッパにおける王侯貴族において発展した絵画芸術と異なる点である。すなわち、江戸の街に

おける年中行事、神田明神、山王祭礼や川開き、両国や上野山下での見世物などの様々なイベント、料理および料理茶屋、商品広告、芝居、役者、音曲、ファッション、吉原や深川の遊里、百人一首や源氏物語などの古典、故事や歴史物語、中国の古典、江戸市内の名所、神社仏閣、東海道や木曾街道などの地方

の風景など、市民生活に密着したあらゆるものが題材として取り上げられ、描かれている。したがって、浮世絵は単なる芸術作品と理解するとその価値が半減する。

江戸時代においては、浮世絵は現代のマルチメディアと同様の役割があった。今でこそ、浮世絵師は芸術家として見られているが、当時の言葉で言えば「画工」であり、情報を作り出すための職人であった。この画工たちが制作した浮世絵には、絵として、また、浮世絵の特徴として文字としても、画工自身のみならず板元や資金を提供した入銀者から発せられた多くの属性情報（メタ情報）が埋め込まれている。しかしながら、これらの画像ならびに文字情報は、一部の博物館や美術館において、所蔵する浮世絵の外題や内題を website において公開する例もあるものの、発達が著しいインターネットやコンピュータを用いても、全ての浮世絵属性情報が検索可能となっていないのが現実である。このため、浮世絵に描き（書き）込まれた属性情報が、江戸の文化を研究する上で、必ずしも十分に活用されている状態とはなっていない。

2. 研究の目的

浮世絵がいつ板行されたかについて、その時期を特定することは、かなり困難なことである。芝居絵については、描かれた芝居の内容や、登場する役者の名前を『歌舞伎年表』などと対比することにより特定することが、比較的容易である。本研究では、板行時期特定が芝居絵ほど容易ではない、美人画、特に、江戸吉原の花魁を宣伝するために制作された遊女絵に注目して、開板時期を特定することを試みた。すなわち、絵に描きこまれた、あるいは、書き込まれた属性情報と、毎年春秋二回刊行される『吉原細見』と呼ばれる吉原の遊女の名寄せとを対比することにより、開板時期を特定し、さらに、その結果をもとに、吉原の妓楼におけるビジネスとマネジメントに関して新しい知見を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

まず、遊女絵に描き込まれた、外題、妓楼の名前や花魁の名前を、文字情報として抽出した。絵に多くの文字情報が書き込まれているのは、西洋絵画にはない浮世絵の特徴である。二番目に、遊女絵に描きこまれた描画要素を抽出し情報化した。三番目に、吉原の花魁の名寄せであり、印刷物として板行された『吉原細見』に掲載された花魁の名前を、コンピュータの検索の対象となるよう、文字情報化した。

遊女絵の場合、多くが複数の花魁を描く揃い物（シリーズ）として短期間に制作される。したがって、描かれた花魁の名前が吉原細見

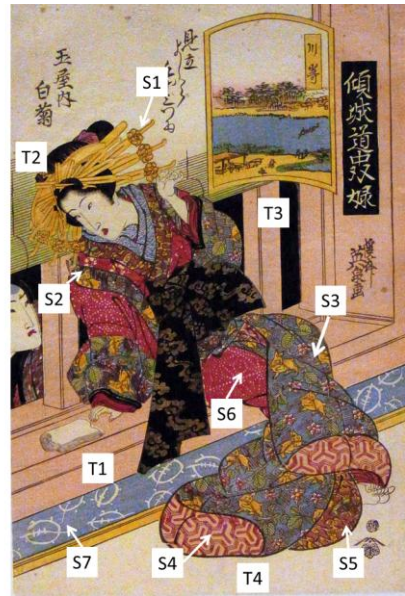


図1 浮世絵にタグ付けされた属性情報。「傾城道中双ろく見立よしはら五十三つみ 川崎 玉屋内白菊」（オランダ・国立民族学博物館）



図2 『吉原細見』部分。文政7年(1824)春。

上で同時に登場する時期を、絵の開板時期として特定することが可能となる。

4. 研究成果

(1) 開板年の特定

図1に溪斎英泉が描く「傾城道中双ろく見立よしはら五十三つみ 川崎 玉屋内白菊」において、コンピュータに入力すべき情報として抽出した描画要素にタグ番号を付与した例を示す。ここでは、小道具として「懐紙」(T1)、中道具として「すだれ」(T2)、大道具として「窓格子」、「座敷」(T4)、「腰張」(S7)を抽出した。また、人物服飾上のシンボルとして「牡丹」(S1)、「撫子」(S2)、「更紗」(S3)、「毘沙門亀甲」(S4)、「七宝と雲」(S5)、「麻の葉」(S6)を抽出し、人物以外の部分に描かれたシンボルとして「亀」(S7)を抽出した。ここでは、簪に「牡丹」の模様が描かれてい

表 1 溪斎英泉による遊女絵揃い物の開板時期の特定

| 名称 | 数 | 開板時期 |
|-------------|----|--------------|
| 吉原要事 | 12 | 1823 |
| 姿海老屋新造出し | 4 | 1824 |
| 拍子逢妓 | 8 | 1824 |
| 契情五軒人 | 5 | 1824-1826 |
| 契情(傾城)道中双ろく | 55 | 1825 |
| 吉原八景 | 8 | 1827-1828 |
| 姿海老屋楼上之図 | 3 | 1828 |
| 契情六佳撰 | 6 | 1828-1830 |
| 傾城江戸方格 | 30 | 1829 |
| 諸国富士尽 | 11 | 1830-1832 |
| (仮宅の遊女) | 3 | 1835 |
| 青楼七軒人 | 7 | 1817 or 1820 |
| 新吉原八景 | 8 | 1821-1822 |
| (総州屋桜一人立) | 4 | 1821 |
| 廓中八契 | 8 | 1824 |
| 新吉原遊君七小町 | 7 | 1825-1827 |
| 當世廓風俗 | 8 | 1827-1829 |
| 新吉原全盛七軒人 | 7 | 1827-1830 |
| 春夏秋冬 | 4 | 1828-1830 |
| 新吉原年中行事 | 12 | 1829 |
| 吉原美人 | 8 | 1834 |

るが、簪の模様には花魁の紋が用いられる場合があり、花魁の特定に有効な情報である。

図2に遊女の名寄せである『吉原細見』の例として、文政7年(1824)春の妓楼「和泉屋平左衛門」の例を示す。ここにある「くずし字」を読み取り、コンピュータに文字情報として入力した。これらをもとに、さらに成立時期が文政元年、5年および9年(それぞれ、1818、1821、1825)と明確な、オランダのライデン市にある国立民族学博物館所蔵「シーボルト・コレクション」にある絵も参考にしつつ、松本市の日本浮世絵博物館、東京都立中央図書館、千葉市美術館、英国 Victoria and Albert Museum などが所蔵する文化後期から、文政、天保初期に溪斎英泉が描いた、遊女絵 21 シリーズ、218 枚の開板時期の特定を行った。この結果を表1に示す。

(2) 異板の前後関係の特定



図 3A 「契情道中双ろく見立よしはら五十三つ小田原 海老屋内愛染」(オランダ・国立民族学博物館)



図 3B 「契情道中双ろく見立よしはら五十三つ小田原 岡本屋内長太夫」(オランダ・国立民族学博物館)

「契情道中双ろく」にあつては、同じ図柄でありながら、妓楼名と花魁の名前だけが異なる異板が存在する。どちらが先に刷られた初版であるかについては、関心の大きいところである。図1に示すタグ付けされた属性情報として、簪の模様や、明確に描き込まれた紋について注目すると、妓楼固有の紋の利用規則が明らかになった。すなわち、遊女絵における紋をキリスト教の聖像画におけるattributeと同様に理解することが可能となった。attributeとして理解できる紋が描かれている場合には、どちらが初版なのかを結論づけることが可能となった。あるいは、同じ花魁が他の絵に描かれており、その絵に描き込まれた紋から、attributeとしての紋を推定し、初版・後版の関係を決めた場合もある。

この例を、図3Aおよび3Bの「契情道中双ろく見立よしはら五十三つ小田原」で示す。図3Aおよび3Bは、それぞれ、「海老屋内愛染」および「岡本屋内長太夫」の場合である。同時代に描かれた他の絵において、海老屋内愛染では図3Aにあるように「違鷹羽」および「蝶」が紋として描かれている。一方、岡本屋内長太夫では「牡丹」が紋として描き込まれていることから、「契情道中双ろく見立よしはら五十三つ小田原」では、「海老屋内愛染」が初版であると結論づけられる。



図 4A 七橋, 七舟



図 4B 七濱, 七政



図 4C 七人



図 4D 七里

図4 同一の紋を使用し、いずれも名前の一字に「七」を用いる遊女の集団。(日本浮世絵博物館)。

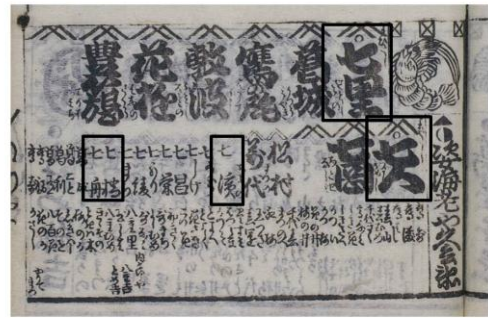


図5 文政7年(1824)春の吉原細見. 姿海老屋の部分。

(3) 絵から分かる妓楼のマネジメント

図4A, 4B, 4C および4Dは、「ききょう紋」を共有し、かつ、その名前の一字に「七」を供する遊女6名、禿4名、さらに妓夫4名の集団である。筆者は溪斎英泉であり、絵は松本の日本浮世絵博物館にある。表1において「姿海老屋新造出し」と記した絵である。この4枚の絵と文政7年(1824)春の『吉原細見』(図5)とを対比すると、この時に呼び出し七枚目に「七人」が、また、振袖新造として「七橋」および「七舟」が突き出されていることから、「七人」、「七橋」および「七舟」を同時に新造出しすることを宣伝する絵であろう。そして、これを仕切ったのが、同じ「七」を名前の一字に持つ姉女郎「七里」であると理解できる。『吉原細見』からは、「七人」、「七橋」、「七舟」以外にも多数の「七」のつく遊女集団の存在が明らかであり、「七里」はこれらのグループ(姿海老屋内のサブシステム)の上に立って、これら妹女郎たちの経済的世話をし、自分はこれらの妹女郎から日常的な世話を受けていたことが想像できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 本多亜紀, 内田保廣, 「浮世絵の構成要素を対象とする検索方法の検討」, 『共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要』, 査読無, 第19巻, 2013, pp. 109-128.
- ② 日比谷孟俊, 「溪斎英泉が描いた京町一丁目姿海老屋の人事異動」, 『浮世絵師溪斎英泉展図録』, 査読無, pp. 23-31. 千葉市美術館, 2012.
- ③ 佐藤悟, 「鋳形蕙斎絵本の版木」, 「中村吉兵衛の千年飴売り」, 「南京人之図」

『鍬形蕙斎一絵本と版木一展図録』, 査読無, それぞれ, pp. 6-11, 14, 15. 実践女子大学, 2012.

- ④ 佐藤悟, 「葛飾北斎『風流源氏うたがるた二種』, 『浮世絵芸術』, 査読無, 第165号, 2012, pp. 37-49.
- ⑤ 日比谷孟俊, 佐藤悟, 内田保廣, 「吉原細見データベースとAttributeとしての紋を用いた文政期における英泉の遊女絵開板時期の特定 -契情道中双ろく見立吉原五十三對を例として-」, 『浮世絵芸術』, 査読無, 2012, 第163号, pp. 5-28, 国際浮世絵学会.
- ⑥ 咲本英恵, 本多亜紀, 内田保廣, 「不埒物語」, 『共立女子大学文芸学部紀要』, 査読無, 2012, 58巻, pp. 19-71.
- ⑦ 佐藤悟, 「李白観瀑図の変貌—李白はいつから酒に酔ったのか—」, 『実践国文学』, 査読無, 2011, 第88巻, pp. 59-68.

[学会発表] (計 9 件)

- ① 日比谷孟俊, 「浮世絵から見た江戸新吉原江戸町一丁目と泉屋の歴史」, 立命館大学日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点セミナー (招待講演), 立命館大学, 2012. 12. 10.
- ② 日比谷孟俊, 「画かれた河東節と一中節 -吉原と菅野序遊父子-」, 第5回絵入本ワークショップ, 関西大学, 2012. 12. 9.
- ③ 佐藤悟, 「名所絵の世界としての吉原」, 吉原と浮世絵に関するプレ国際シンポジウム, “パネル討論: 吉原研究における浮世絵の意義”, 日本浮世絵博物館, 2011. 12. 4.
- ④ 日比谷孟俊, 「遊女絵の紋が示す妓楼のビジネス」, 吉原と浮世絵に関するプレ国際シンポジウム, “パネル討論: 吉原研究における浮世絵の意義”, 日本浮世絵博物館, 2011. 12. 4.
- ⑤ 佐藤悟, 「柳亭種彦の吉原研究」, 吉原と浮世絵に関するプレ国際シンポジウム (招待講演), 日本浮世絵博物館, 2011. 12. 3.
- ⑥ 日比谷孟俊, 「一次史料に基づく妓楼と泉屋の歴史研究」, 吉原と浮世絵に関するプレ国際シンポジウム (招待講演), 日本浮世絵博物館, 2011. 12. 3.
- ⑦ 日比谷孟俊, 佐藤悟, 内田保廣, 嶋津恵子, 「吉原細見データベースとAttributeとしての紋を用いた文政期における英泉の遊女絵開板時期の特定に関する研究」, 第13回国際浮世絵学会大会, 千葉市美術館, 2011. 6. 5.
- ⑧ 日比谷孟俊, 「遊女絵属性情報アーカイブシステムの構築と活用」, 第4回絵入本ワークショップ, 大和文華館 (奈良県), 2010. 12. 5.

- ⑨ 佐藤悟, 「正本製」, 第4回絵入本ワークショップ, 大和文華館 (奈良県), 2010. 12. 5.

[図書] (計 1 件)

- ① 佐藤悟, 『正本写合巻集・別冊』, 国立劇場調査養成部, 2011, 総ページ数 191.

[その他]

ホームページ等
吉原と浮世絵に関するプレ国際シンポジウム
<http://lab.sdm.keio.ac.jp/isyu/cfp-J.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日比谷 孟俊 (HIBIYA TAKETOSHI)
慶應義塾大学・システムデザイン・
マネジメント研究科・講師 (非常勤)
研究者番号: 60347276

(2) 研究分担者

内田 保廣 (UCHIDA YASUHIRO)
共立女子大学・文芸学部・教授
研究者番号: 10044736

佐藤 悟 (SATO SATORU)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号: 50178729

嶋津 恵子 (SHIMAZU KEIKO)
慶應義塾大学・先端研究センター・
特任准教授
研究者番号: 70424215